

尿管結石とは

尿管は腎臓で作られた尿を膀胱に運ぶ直径4mm程度の通り道で、そこに結石が詰まった状態です。結石は腎臓内部(腎盂)で作られ、突然尿管に降りて閉塞を来します。

《症状》

- 元気が無い
- 嘔吐
- 食欲低下
- 血尿
- 尿が出ない 等

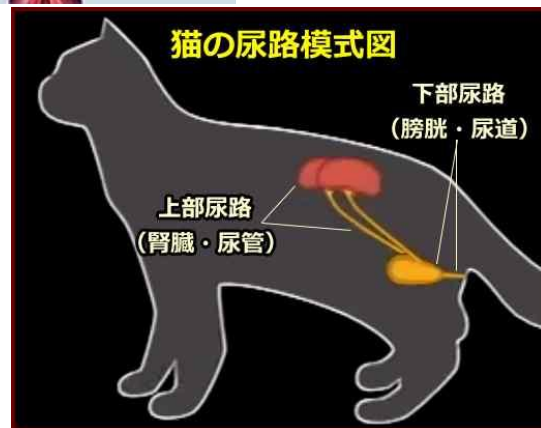
叫ぶような、激しい痛みは訴えませんがうずくまって動かないなど、異変が見られます。片側性の場合や部分閉塞の場合は目立った症状を示さないこともあります。

《診断》

- 血液検査
多くは急性腎不全となっており、腎臓の数値が異常値を示します。
- エコー検査
閉塞箇所の腎臓側の尿管拡張、また腎盂も拡張した**水腎症**の所見があります。
- レントゲン
不透過性の結石がレントゲンに映ることがあります。また、造影剤を用いて閉塞箇所を特定する検査も行います。
- 尿検査 等



結石
(多くはシュウ酸カルシウム結石)



《治療》

◆ 点滴

急性腎不全に対する治療として、また尿を産生して結石を押し出すことも期待して点滴を行います。多くは片側性の閉塞のため、もう片方の腎臓でおしっこを作ってくれます。

※両側性閉塞の場合、尿の産生・排泄が出来なくなり、数時間～数日で亡くなってしまいう危険性があります。

◆ 内科治療

尿管の炎症に対するステロイド、尿路の感染に対する抗菌剤、フロセミドやマンニトールなどの利尿療法が選択されます。内科治療に反応しない場合は外科が選択されます。

◆ 外科手術

閉塞によって水腎症となると、尿毒素が高値を示し、一気に状態が悪くなります。

水腎症を一時的に解除するために、腎瘻チューブを留置することもあります。これは麻酔下で腎盂に直接カテーテルを設置し、そこから尿を抜去することで状態の回復が見込めます。

しかし尿管の閉塞に対してのアプローチではないため、状態の回復を待つ手術に臨みます。

尿管を切って結石を取り出すことが根本的な治療となります。非常に細い尿管を切開し、縫合を施すため慎重な手技が必要となり難易度が高い他、術後に尿管が炎症等で狭窄してしまう、縫合部が開いてしまうなどがあるため術後も慎重な看護が必要となります。

◆ 食事療法・サプリメント

尿管結石の98%はシュウ酸カルシウム結石で、食事療法で溶解が見込めない結石です。

そのため食事療法より、飲水量を増やす工夫(ちゅ〜る水など)や、サプリメントが多く選択されます。